

令和7年度

認知症対応型共同生活介護「サービス評価」 総括表

令和8年3月12日

法人名	株式会社ふるさと	代表者	西村 さとみ	法人・事業所の特徴	当事業所は同一法人内に居宅介護支援、地域密着、認知症対応通所介護、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護を有しており、認知症の初期の段階から、ご利用者・ご家族と馴染みの関係を構築出来るよう支援を行っています。「利用者本位」「自立支援」を「生活の視点」から見る取り組みを行っており、地域との繋がりを断ち切らないような支援を日々奮闘しています。
事業所名	グループホーム 我が家	管理者	松本 明宏		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	1人	6人	0人	9人	2人	人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	申し送りノートを使ったり会議の開催で情報の共有を図ったが、十分理解出来ていないスタッフ（日本人スタッフ、外国人スタッフ共に）がいたので、勉強会等行い共有を行って行く。	職員が情報共有できる仕組みを構築した。 外国人スタッフにも理解出来る様、丁寧な説明を心がけた。		令和7年度事業所自己評価結果にて、「あまりできていない」という意見が半数を占めていた。次年度は、改善計画について、職員(外国人実習生含め)周知を図り、取り組んでいく。
B. 事業所のしつらえ・環境	玄関だけでなく、利用者さんが過ごす場所に季節感を持たせる等のしつらえを行っていく。	ダイルームに大きな掲示板を設置し、季節を感じる事が出来る飾りつけを行った。居室廊下を利用し、日々のレクリエーションの様子等を写真で掲示し、利用者だけでなく、家族の皆さんにも観覧して頂いた。		四季を感じながら心地よく過ごす事ができるように、利用者さんと共に環境整備(ダイルーム・居室)に取り組んでいく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方のアドバイスを活かし外出支援を行って行く。 また、地域のイベントの計画を頂き、外出の計画を立て実行していく。	前回会議でアドバイス頂いたコースを散歩した。ふるさとでの取り組みについて、運営推進会議やチラシ等の配布を行い、周知活動を行った。地域のイベントへの参加は、職員のみにとどまってしまった。		HP等通じ、事業所の活動を地域の皆さんへ発信していく。 コロナ以前に行っていた、多世代交流も行いたい。地域の皆さんに、法人として目指している共生社会についてご理解いただけるよう、研修の開催等、情報発信を行って行く。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	現在地域資源を使って支援している人だけでなく、他の利用者さんにも出来るように検討・実施していく。	健康ケア教室やあかつき会ボランティアレクに参加する事は出来た。しかし、受け身の状態であり、出向く事は出来なかったように感じる。		委員の皆さんから頂いた情報を基に、地域の行事に、利用者の皆さんと共に参加出来るよう、取り組んでいく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を活かし、地域のニーズを把握する 把握したニーズを具現化していく	委員の皆様にご協力頂き、定期的に開催する事が出来た。特に、当事業所は有事の際、法人としての避難所となる為、防災・災害対策について、周知できたことは大きいと感じている。 また、地域での色々な情報を頂き参加させて頂いた。地域の中の施設であると実感する事が出来た。		来年度も定期的に運営推進会議を開催し、委員の皆さんとの意見交換や情報共有を行って行く。 地域との関係づくりを大切にしながら、地域のニーズを把握し、支援や取り組みに反映していく。
F. 事業所の防災・災害対策	BCP は引き続き研修を通して繰り返し学ぶ機会を作っていきます。自家発電機の使い方の研修を行い、有事の対応が出来るように周知していく。	BCP 策定と併せ、自家発電・貯水槽の活用について、地域の皆さんにも周知する事が出来た。 事業所として、夜間を想定した避難訓練を定期的に行っている。		来年度、有事を想定し、より具体的な訓練を行う。 (対策本部設営 備蓄品運搬簡易トイレ設置等) 法人としての防災対策を地域の皆さんに発信していく。